

2019 年度 総合研究所特別研究員 研究活動報告

氏名	池田 晶
研究テーマ	近世社寺と祭礼史の研究
研究概要	近世比叡山延暦寺と日吉社における社寺の祭祀が周辺地域の人々と共有した開かれた祭礼へと変容を遂げる過程を明らかにすることを目的とする。

1. 研究活動の概要と研究成果	<p>2019 年度は、研究題目である「近世社寺と祭礼史の研究」の研究を進めるための基礎的研究として「(1)近世の神事能における「翁」の芸態の復元」。「(2)神事能の舞台及び棧敷の復元」。以上 2 点の研究をおこない、その研究成果は以下の通りである。</p> <p>(1)に関しては、近世の翁詞章の新出資料を確認することができ、その資料に基づいて、近世の「翁」が現行の一人翁ではなく、千歳を伴った本格的な「翁」であったことを論証した。</p> <p>(2)に関しては、近世の日吉神事能の舞台が現行のような拝殿を利用したものではなく、仮設舞台を本殿と拝殿の間に設営するという特殊な形態であったことを、新出資料の絵図資料を用いて論証した。</p> <p>本年度の研究成果と従来までの研究蓄積により、近世的な日吉神事能の実態を把握することができた。</p>
2. 学術論文・学会発表等	<p>2019 年度の研究成果の内、「(1)近世の神事能における「翁」の芸態の復元」は、佛教大学総合研究所の『佛教大学総合研究所紀要』第 27 号、(2020. 3. 25 発行 (査読有)) に投稿し、「近世日吉神事能の復元的研究－翁詞章を中心として－」として掲載された。</p> <p>「(2)神事能の舞台及び棧敷の復元」は、近畿民俗学会の学会誌『近畿民俗』第 186 号 (2020. 3 発行) に投稿し、「叡山文庫所蔵止観院絵図『能舞台之図 (十禪師)』・『御棧敷拵絵図 (御神事能)』」として掲載された。</p>
3. 今後の課題	<p>今後は、近世の日吉神事能の執行体制と、その経済的基盤の検討が必要であり、日吉神事能の実務を取り仕切っていた比叡山延暦寺管下の山門公人家文書の調査をすすめることと、比叡山延暦寺三執行代等の記録等の調査をすすめることが課題となる。</p>